

T.S.P.I LTD, TOMOKO SHIBATA プロデュース

柴田智子の自由で素敵なコンサート Vol.3

# Precious for Christmas

For you 2020

~世界の名曲に出会う旅~

柴田智子 ソプラノ

with 追川礼章 ピアノ

ゲスト中村裕美 メゾソプラノ



2020年12月13日（日）19：00開演

豊洲シビックセンターホール

## ～ご挨拶～

皆様 本日は師走のお忙しい中に加え今年世界中の皆様を震撼し続けているコロナのウィルスの感染者が多い中のご来場誠にありがとうございます。

今はなかなか旅行にいけない年だからこそ「音楽で皆様と世界の素晴らしい音楽に出会う旅」と題して音楽で皆様を世界にお連れできればと企画致しました。

1部は日本で聴くことが少ないクリスマス曲やNYでは年末の風物詩オペレッタ、2部は1950年代前後の王道ミュージカルと日本の歌で皆様に聴いて頂きます。

このコンサートの開催の決めたのは10月半ば、追川礼章さん作曲の「夢」との出会いです。素晴らしい曲で是非多くの方に聴いて頂きたいと思います。人との出会いや別れは必然の時あります。音楽ジャーナリストの池田卓夫さんやより以前からお名前を伺っていましたが、今回タイミングが合い一緒できるご縁となり感謝しております。

また今回のクリスマス曲にインスピレーションを与えて下さった音楽ジャーナリストの林田直樹さん、そしてコロナ過で会場にお越し頂きました皆様、柴田のチャレンジを信じて応援して下さいるスタッフの皆さんにも深く御礼申し上げます。

NYに住み演奏旅行だけではなく世界中の隠れざる名曲を訪ねる旅を重ねて来た私ですが「異文化に触れる度に大きな刺激を受けながら自分の感性に重ねられる曲たちを皆様に、今を重ねて紹介させて頂ける事が、歌い続けるモチベーション」になってきました。

年を重ねてきたからこそわかることも沢山あり、年齢を重ねながらも音楽と向き合い寄り添って参ります。

人それぞれに時があり若くして活躍する方もいれば色々な状況で活動を制限される場合があります。戦争だったり震災だったり今回の様な状況であったり、だからこそそれぞれが与えられた時間の中で出来る活動をしていくのが重要なと考えております。

そして今同じステージに立つ若いミュージシャンの方々と私の見えている景色とは全く違うからこそ、私のチャレンジも新鮮に受け入れて頂いている事を幸せに思います。

自粛生活の中では、一人でも感染者を増やさない為にも全てをキャンセルし、自宅に引きこもる事5か月。緊急事態宣言が出されてからは皆様と同じく、この未知のウィルスに関しては人とすれ違いさえも避けて、深く息をすることも躊躇する時期がございました。その間に多方面で実験や検証を繰り返し、多くのボランティアの活動に助けられ何を守ればリスクが抑えられるかを少しずつ理解してきました。

私の音楽でのキャリアを過ごしたNYの感染者数は「マスクをしない」という文化が明暗を分けて急増。バーやレストランでは大きな声で話す、手を洗わない事や、土足で家の中に入る等、エンタメの宝庫である事などの文化や生活習慣の違いが大きな危機を呼びました。また社会を支える貧しい労働者方々の共同生活からくる感染も日本との大きな違いと感じました。来年の冬までオペラの開催も決まっていますが、その中で日本はオペラの上演やコンサートのコロナ禍での再開は目を見張るものがあり、今を受け入れながら日常を展開していく事は勇気がある事ではありますが、ルールを守って下さる皆様と一緒にこうした時間が持てる事には感謝の気持ちでいっぱいです。

こんな状況の中でも生の音楽を聴きたいと望む方々には、生の音楽が生きる為に必要なものである事も逆に励まされました。主催する側は安全第一に開催できるか、責任や経済リスクをとれるか等、しっかり考慮した上で主催者とお客様の間ルールを持って開催するならチャンスは開かれると感じております。この豊洲シビックセンターホールは593㎡あり同じ座席数の他のホールは大体260㎡～377㎡である事から皆様にマスク・消毒・会話なしのルールにご協力頂きながら密集を避け安心して聴いて頂ける場所として開催に踏み切りました。

新しいチャレンジとして配信にも力を入れ、カメラの2～3台用意して担当するスタッフをホールに来て頂いて収録と同時配信を行い、アーカイブも配信も期限までお楽しみ頂きます。次のコンサートの開催は6月18日(金)19日(土曜)を予定しております。

ピンチはチャンスとして出来る事を気持ち引き締めてチャレンジして参ります。

皆様どうかご自愛頂きますように。

コロナ禍におきましてこの場にお出かけ頂きました事を心から御礼申し上げます。

柴田智子

## 【PROGRAM】

～1部～

クリスマス曲

1. イエスよ、眠れ/ Dormi Jesu 作曲不詳
2. 主よ褒め称えよ/ Laudate Dominum (1779年) 作曲:A. モーツァルト
3. 哀歌/ IV Lament [Stabat mater](2008年) 作曲:K. ジェンキンス
4. 慈悲/ Et Misericordia (1990年) 「Magnificat」より 作曲:J. ラッター
5. きよしこの夜/Silent Night (1818年) 作曲:F. グルーバー

オペレッタ

6. ウィーンの夜会 ヨハン・シュトラウスのワルツ主題による演奏会用パラフレーズ Op. 59  
ピアノソロ オペラ「こうもり」より 作曲:A. グリュンフェルト 編曲:追川礼章
7. ピアノソロ メリーウィドーワルツより (1905年) オペラ「メリーウィドウ」より 作曲:F. レハール
8. ヴィリアの歌/Vilia song(1905年)オペラ「メリーウィドウ」より 作曲:F. レハール
9. 芸術が私を呼んでいる/Art is calling me(1911年) オペレッタ「魅惑的な人」より 作曲:V. ハーバート

休憩 15分

～2部～

映画とミュージカル

10. ムーンリバー/Moon River (1961年) 映画[ティファニーで朝食を]より 作曲:H. マンシーニ  
編曲:岩城直也
11. 虹の彼方に/Over the Rainbow (1939年)ミュージカル映画[オズの魔法使い]より 作曲:H. アーレン  
編曲:岩城直也
12. 私のお気に入り/My favorite things(1959年)ミュージカル映画[サウンドオブミュージック]より  
作曲:R. ロジャース 編曲:追川礼章
13. サマータイム/Summertime (1935年) ミュージカル[ポーギートベス]作曲:G. ガーシュイン
14. 彼を帰して/Bring him home (1985年) ミュージカル[レ・ミゼラブル]より 作曲:C. シーエンベルグ

日本の曲コーナー

15. 人生のメリーゴーランド (2004年) 映画[ハウルの動く城] 作曲:久石譲 編曲:追川礼章
16. 瑠璃色の地球(1986年) 作曲:平井夏美 編曲:岩城直也
17. 夢 (2020年) 作詞:林部智史 作曲・編曲:追川礼章

※当日曲目に変更する場合はございます。予めご了承下さい。

## -第1部-

### 1. イエスよ、眠れ / Dormi Jesu

クリスマスの時期によく歌われるこの曲ですが、実は作詞者が不明である。沢山の作曲家によってメロディーが作られた。その中でもソプラノ歌手キャスリーン・バトルのために書かれたものは彼女の歌声と歌詞が子守歌でもある為、美しい旋律と共に癒し音楽だと言われ定評がある。それを見つけた柴田が自ら楽譜を起し、歌い上げる。

### 2. ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト (1756年1月27日 - 1791年12月5日)

オーストリアの音楽家。神童と呼ばれ、数々の声楽曲、器楽曲を残した。作品は長調で書かれ装飾音も多く華やかな印象のものが多い。幼い頃より音楽家である父親レオポルトと共に旅行をしながら音楽を学んでいったが、それが原因で患ったリューマチ熱で若くして亡くなったと言われている。

### 主を褒め称えよ / Laudate Dominum (1779年) ヴェスペレ(証聖者のための晩課) 第5曲

「ヴェスペレ」とは正教会の晩の奉神礼、およびカトリック教会の晩の典礼をいう。その美しい旋律から、演奏会・コンサートなどで単独で演奏される機会も少なくない。

#### 訳詞

諸々の国よ、主を褒め称えよ  
諸々の民よ、主を称えまつれ  
私たちに賜るその慈しみは大きいからである  
主のまことは永遠に絶えることがない  
願うならば父と子 精霊に栄光あれ  
初めのときのように 現在も いつも  
代々に至るまで アーメン

### 3. カール・ジェンキンス(1944年2月17日-)

ジャズ系のミュージシャン。ピアノ、オーボエ、バリトンサクソフーン奏者、作曲家。ウェールズ人の父とドイツ人の血を引く母との間に生まれ、幼少期に教会の聖歌隊長を務めていた父の影響で、ピアノやオーボエを習い始める。その後、ウェールズ国立ユース・オーケストラの首席奏者となる。大学卒業後は1969年に結成されたジャズロックグループ、ニュークリアスのメンバーとなり、多くの作曲と演奏に関わる。1972年にジャズロックユニット、ソフト・マシーンに参加。ソフト・マシーンのメンバーであったマイク・ラトリッジと共にCM等の作曲や製作活動を行い、D&ADの賞「ベスト・ミュージック」を受賞。1990年代には彼がプロデュースするアディエマスのデビューアルバム『聖なる海の歌声』が世界的にヒット。

### 3. 哀歌/IV Lament [Stabat mater] (2008年)

人は誰も心に影を持ち、時には哀しみに暮れ、涙として溢れ出る。しかし、その涙は世界の棘を洗い流し哀しみを少しずつ無くしていくだろう。

この曲にはカール・ジェンキンスのメロディーが乗ることで哀しみだけでなくその先の希望が見える。

### 4. ジョン・ラッター (1945年9月24日-)

ロンドン出身の作曲家、合唱指揮者。20世紀後半の作曲家としては保守的で、前衛的・実験的な要素はほとんど見られない珍しい作曲家である。ポップで楽しい旋律とシンプルな和音が曲の基調であり、変拍子やジャズを混ぜることで現代性を加えている。また、グレゴリオ聖歌を引用し、民謡を積極的に取り入れることから音楽を専門としない人たちにも親しみやすさがある。近年、彼の作曲した合唱曲は日本でとても人気がある。

### 慈悲/Et Misericordia (1990年) 「Magnificat」より

映画音楽を聴くような鮮烈な印象を与える作品「Magnificat」全7曲の中の1曲。世代を超え、主の慈悲が渡るようにと祈りが込められている。歌詞の通り音楽もソリストからコーラスへと受け継がれるように歌い繋ぐ曲となっている。

### 5. きよしこの夜 / Silent Night (1818年)

この曲はクリスマス・イヴの前日、当初歌われるはずだった曲が、教会のオルガンの音がねずみに齧られ出なくなり、急遽ギター伴奏で歌える讃美歌を作ることになった時に短時間で書き上げた曲と言われている。実は原語はドイツ語であるが、世界各国で訳されシンプルで覚えやすいメロディーと共に今ではクリスマスの定番曲となっている。

### 6. アルフレート・グリュンフェルト (1852年7月4日 - 1924年1月4日)

オーストリアで活躍したボヘミア出身のヴィルトゥオーゾ・ピアニストで作曲家。「録音」を遺した最初の著名なピアニストの一人である。

### ウィーンの夜会 ヨハン・シュトラウスのワルツ 主題による演奏会用パラフレーズ Op. 56 ピアノソロ オペレッタ「こうもり」より

#### 編曲：追川礼章

ワルツ王と呼ばれたヨハン・シュトラウス二世作曲オペレッタ「こうもりの」の楽曲を、グリュンフェルトが編曲した作品。原曲はオーケストラで演奏されているものを、ピアノ演奏用に行っているため、軽やかなワルツの裏には多くの音が使われ難易度が高く、かつとても華やかな作品である。

### フランツ・レハール (1870年4月30日 - 1948年10月24日)

オーストリア＝ハンガリー帝国生まれの作曲家。オーストリアやドイツを中心にウィenna・オペレッタの分野で活躍した。プラハ音楽院でドボルザークらに学び、ウィーンでオペレッタ作曲家としてデビューする。オペレッタ「メリーウィドウ」はレハール自身の指揮によって初演され、人気作品となり、オペレッタの第2黄金期を代表する作

曲家となった。メロディーメーカーとしては天分にめぐまれ、甘く夢見るような旋律美は今尚世界中の歌劇場で愛されている。

## オペラ「メリーウィドウ」(1905年)より

### 7. メリーウィドワールツ

作品全体を通して華やかで明るい音楽の多い「メリーウィドウ」の魅力が一度聴いたら忘れられないメロディーとして戦後も歌謡界でも多く演奏され続けている。

### 8. ヴィリアの歌/ Vilia song

ヴィリアの歌は、若く美しい未亡人ハンナが、曲の中の「ヴィリア」と自分自身を重ねて、祖国を想って歌う美しいアリアである。

## 9. ヴィクター・ハーバート 1859年2月1日 - 1924年5月26日)

アメリカ合衆国に帰化したアイルランド人作曲家・指揮者・チェリスト。芸術音楽のほかに、ライト・オペラと呼ばれた初期のミュージカルの作曲で人気があった。20世紀初頭の20年間においてハーバートは作曲家が自作から収益を得られる権利を擁護するため、ジョン・フィリップ・スーザやアーヴィング・バーリンらと密着して働き、米国作曲家作詞家出版者協会(ASCAP)を設立し、10年間この組織の副総裁を務めた。この団体は現在においても、創造的な音楽家の権利を保護している。

## 芸術が私を呼んでいる/Art is calling me(1911年) オペレッタ「魅惑的な人」より

別名プリマ・ドンナソングと言われているこの曲は、その名の通りチャーミングな曲で歌詞の中に出てくる「プリマ・ドンナ」の語呂や、ベルカントの名歌手テトラツィーニ、オペラ作家グノー、プッチーニなどの聞き覚えのある単語がでてくるのも印象的である。アメリカの最盛期の音楽を感じる曲となっている。

### 訳詞

お母さんは女王、そしてお父さんは王様よ  
だから私は王女で  
でも宮廷の儀礼なんてうんざり まっぴら  
舞台上で歌うこと、それが私のただ一つの人生なの

私の容貌はテトラツィーニみたいのよ  
プッチーニさんが書いたオペラの“ラ ポエム”  
を私が歌ったら間違いなく有名になるわ

私はルラードやトリルなどの声楽の装飾音が自由に使えるの。

それを聴く人は背筋がぞくっとする程  
私はプリマドンナになりたいの、舞台の上で輝きたいの

私は歌姫になれる程胸もあるけど  
容姿ときたら本の頁ほどに薄くて奇麗なの

だけどよくオペラにでてくる歌手のような  
ピーチクパーチクいう  
ふっくらした歌姫になりたいの

社交界なんて大嫌い 礼儀作法なんてうんざり  
芸術が私を呼んでいるのよ

私は選ばれた人たちの一人なの  
男性は私の足もとで溜め息をつく  
そんな男たちには用はないの

詩的なことには私の野心が燃えあがる

テノール歌手は本当に甘いおバカちゃん  
私と恋に落ちたら私は彼らのエキスを吸い取って  
必ず成功するわ

グノーのオペラ“ファウスト”を私が歌ったら  
メルバなんか蹴落として見せる

女たちは私にヒステリーを起こしてパニックになり  
強い男たちも酒に走るでしょうねえ

私はプリマドンナになりたの、  
舞台の上で輝きたいの  
この体重でトラ、ララ、ララという 美声とで  
時代の先端をいくに違いない

みんながディーヴァに万歳って叫ぶのを聞くのよ  
ああ、きっと素晴らしいでしょうね

それが 私が死ぬ程に望むもの  
ため息が出る程  
芸術が私を呼んでるの！

## -第2部-

## 10. ムーンリバー/Moon River (1961年) 映画[ティファニーで朝食を]より

ヘンリー・マンシーニ作曲、映画『ティファニーで朝食を』で、主演女優のオードリー・ヘプバーンが劇中で歌った曲である。映画とともにこの曲も大人気となった。現在までにジャンルを越え数百を超えるカバー曲が歌われているが、作曲家のヘンリーはオードリーが一番この曲を理解し、声域も1オクターブと1音しかないオードリー・ヘプバーンに合わせて書いたものであり、まさにオードリーの為の曲で彼女が最高の「ムーンリバー」を歌うことのできる人だと言っている。

## 11. 虹の彼方に/Over the Rainbow (1939年) ミュージカル映画[オズの魔法使い]より

ミュージカル映画『オズの魔法使い』でジュディ・ガーランドが歌った劇中歌。

作曲ハロルド・アーレンは、映画の音楽作曲を依頼された時点で、既に多くの歌曲を作曲して世評の高い人であったが、「カンサスの田舎娘主人公ドロシーが歌うには大人び過ぎている」と反対され

この曲はカットされてしまうところであった。しかし、アイラ・ガーシュインや当時のプロデューサーの後押しもあり使用されることになった。結果「虹の彼方に」はアカデミー歌曲賞を受賞して大ヒット。歌ったジュディ・ガーランドにとっても自らのトレードマーク、テーマソングとも言うべきナンバーとなった。

今日はこの時代の音楽やジュディ・ガーランドを敬愛する若手作曲家で今ボストンバークリー大学に留学中の岩城直也氏により柴田智子用にアレンジされた。

#### 12. 私のお気に入り/My favorite things(1959年) ミュージカル映画[サウンドオブミュージック]より

リチャード・ロジャース作曲、ミュージカル『サウンドオブミュージック』のうちの一曲。怖いことも好きな物を思い出して歌えば怖くなくなると先生が子供たちに教えるシーンで歌われる。ジャズのスタンダード・ナンバー、ポップスでも歌われる。日本では、東海旅客鉄道(JR東海)の観光キャンペーン『そうだ 京都、行こう。』のCMソングとして使用されていることでも知られる。

#### 13. サマータイム/Summertime (1935年)

ミュージカル「ポーギーとベス」より

こちらもジョージ・ガーシュイン作曲の作品。

1幕1場、冒頭曲。スラムの男たちは夜ともなれば賭博に夢中。その1人ジェイクの妻クララが、赤ん坊に歌う子守歌。「お前は幸せなんだよ」と言い聞かせいつかここから飛び立っていく日に望みを託し歌いあげる。

#### 14. 彼を帰して/Bring him home (1985年) ミュージカル映画[レ・ミゼラブル]より

クロード・ミシェル・シェーンベルク作曲の作品。かつてパンを盗んだだけの罪で投獄された大男バルジャンが心優しい神父に助けられ、残りの人生を人の為に生きることを誓う。娘の想い人であり、フランス革命で先陣に立った手負いの青年マリウスの無事と平和を願って歌う一曲。

#### 15. 人生のメリーゴーランド (2004年) 映画[ハウルの動く城] 作曲:久石譲 編曲:追川礼章

映画「ハウルの動く城」は一つのテーマで作曲されている。作中、主人公ソフィーは魔女の呪いによって90歳になったり元の年齢になったりと変化が目まぐるしいが、この曲はその名の通りソフィーの辛い時や愛を知った時の人生全てを表した曲に感じる。

#### 16. 瑠璃色の地球 (1986年) 作曲:平井夏美 編曲 岩城直也

今年再度、松田聖子によってリメイクされたこの曲は、冒頭歌詞「夜明けの来ない夜はないさ」のところに自分を重ね、涙することが多かった一曲。世代を超えて今もなお人々に聴かれ、愛される名曲である。3.11の際、柴田のレパートリーに入れた曲。

この曲も岩城直也氏と今を歌う歌手柴田智子と海を越え編曲方向を打ち合わせながら作曲され新しい作品に生まれ変わる。

#### 17. 夢 作詞:林部智史 作曲編曲:追川礼章

以下追川礼章さんからのメッセージ

「今年の7月にリリースされた林部智史さんの2ndアルバムにリード曲として収録された、私の初めてとなるアーティストへの提供楽曲です。TBSテレビ《ひるおび》の7月度エンディングテーマとしても採用され多くの方に聴いていただくことができました。

『人は夢見やぶれ 新たな夢を見る』この一節から始まる本楽曲、いくつもの夢が破れてしまった今年の出来事を乗り越え、また新たな1年へのエネルギーそして希望を感じていただければ嬉しいです。」

この曲を聴き、心を打たれ、歌ってみたいと強く感じた柴田はその数週間後、偶然にも作曲者である追川礼章さんと出会う。奇跡的な巡りあわせの中で、本コンサートで新たにアレンジされた形で演奏される。

参考文献: Wikipedia





### 【柴田 智子 ソプラノ・プロデュース・演出、構成】

クラシックというジャンルを超え「今を生きる喜び」を歌で世界に発信する。アメリカ音楽のスペシャリスト。近年では日本語で自作曲やジャンルを問わず心に響く日本の歌をコンサートで紹介し柴田の歌う「いのちの歌」では多くの共感を呼ぶ。武蔵野音楽大学を卒業後 NY、マサチューセッツ音楽大学、ジュリアード音楽院に学び、リンカーンセンター、カーネギーホール等でオーケストラと共演やオペラのタイトルロール「ランメルムアのルチア」「セビリアの理髪師」「リゴレット」等を歌いニューヨーク・タイムズから高い評価を受ける。1989年よりミラノに留学しイタリアのベルカントを学びコンサートやオペラに出演と同時にバーンスタイン等のアメリカ音楽を紹介する。

国内外でミュージカルにも出演し、著名な《クロノス・カルテット》とも世界初演を手がけ凱旋し話題を呼ぶ。新日本フィル、読売交響楽団、東京交響楽団、東京シティー管弦楽団、ウエストチェスターシンフォニー、セントマーティン・インザ・フィールド等とも共演。元スマップ、浅倉大介、ラッセル・ワトソンとも共演しクロスオーバーの先駆者となる。東芝EMIと専属契約を結びリリースしたアメリカのオペラやミュージカルを集めた「マンハッタンドリーム」ビートルズの名曲をオペラアリアにした「Let it Be」は世界的な反響を呼ぶ。ソニー、クラウン等から合計7枚のCDをリリース。ライフワークとしてジャンルにとらわれず世界中の心に届くメロディーを集めコンサートで歌い続けている。新国劇場、オーチャードホール、カーネギーホール、リンカーンセンター等の大劇場から王子ホール、白寿ホールなどでの小ホールでのリサイタルでは独自のシアター形式のコンサートを年間数回開催し続けている。プロデューサーとして数多くのコンサートを立ち上げキューピー「サラダ記念日コンサート」は10年続いた。コラボレーションをした企業は株式会社ジョンソンエンドジョンソン、コーセーコスメポート等。NHK/日本テレビ/テレビ東京、ラジオはNHK/TFM/J-WAVE等に出演。FMNACK5の音楽番組のパーソナリティーを8年務める。現在コロナ渦の中「Create for the Next」“コロナ後の音楽の扉を開く対談”をYOUTUBEで発信する等、今を呼吸し続けている。主婦の友社より「年を重ねるほど幸せになる生き方」を出版。近々ユニバーサルミュージックより「マンハッタンドリーム」「Let it Be」が再リリースの予定している。チャリティーにも力を注ぎ、同時多発テロの現場経験者としてチャリティーコンサートに参加。東日本大震災後「SONGS FOR HOPE」を立ち上げ被災した子供達にドネーションを続けている。国連の心のケアプログラムにも参加。ハワイの真珠湾ミュージアムでの歌やスピーチは記憶に新しい。東京二期会、東京室内歌劇場会員、昭和音楽大学、桜美林大学非常勤講師。自由が丘音楽大使、自由が丘オペラハウス内NY LIVING ROOM、株式会社TSPI代表。【公式サイト】<http://www.tomokoshibata.com>



### 【追川礼章 ピアニスト】

1994年生まれ。埼玉県立浦和高等学校卒業後、東京藝術大学楽理科を経て同大学大学院ソルフェージュ科を修了。2歳からヤマハ音楽教室で学び、6歳から作曲を始める。現在は歌手の伴奏をメインに全国各地で演奏活動を行う。室内楽ではこれまでにミュンヘンフィルハーモニー管弦楽団コンサートマスター、ローレンツ・ナストゥリカ氏、ベルリンフィル元主席ヴィオラ奏者ヴィルフリート・シュトレレ氏、NHK交響楽団のメンバーらと共演を重ねる。テレビ朝日《題名のない音楽会》、BS-TBS《日本名曲アルバム》、BS朝日《日本の名曲世界の名曲 人生、歌がある》、NHKラジオ第一《新日曜名作座》にピアニストとして出演。

これまで編曲&ピアノで参加したCDはエイベックスより発売中の《琴線歌 ～はやしべさとし 叙情歌を道連れに～》、《琴線歌 其の二～はやしべさとし 叙情歌を道連れに～》、日本コロムビアより発売中の《Sirius MY FAVORITE THINGS》他。また、2020年7月29日リリース林部智史2ndアルバムに収録の《夢》の楽曲提供も行っている。尚この楽曲はTBSテレビ《ひるおび!》の7月エンディングテーマとして使用される。2020年4月末から本格始動したYouTubeチャンネルが、1ヶ月でチャンネル登録者数3000人を集める。《追川礼章 Ayatoshi Oikawa YouTube チャンネル》

[https://www.youtube.com/channel/UCjzoMRQ\\_hu2PVei49ebtqkA](https://www.youtube.com/channel/UCjzoMRQ_hu2PVei49ebtqkA)



### 【中村裕美 メゾソプラノ】

武蔵野音楽大学大学院修了。文化庁新人育成・日本オペラ団体連盟主催「ヘンゼルとグレーテル」魔女、「こうもり」オルロフスキー、新国立劇場「ボッペアの戴冠」ヴァレット、東京室内歌劇場「ル・グラン・マカーブル」アマンド、「マノンの肖像」モルセール子爵ジャン、「ヘンゼルとグレーテル」ヘンゼル、「天国と地獄」世論、二期会ニューウェーブオペラ劇場「ジュリアス・シーザー」トロメオ、ヘンデル・フェスティバル・ジャパン「サウル」ダヴィデ、三木稔「幸せのパゴダ」作曲家等に出演。2017年モンテヴェルディ没後400年記念リサイタル「アリアンナの嘆き」開催（共演：つのだたかし、伊藤美恵）。2018年日本ヘンデル協会創立20周年記念公演「アリオダンテ」タイトルロールは「音楽の友」誌上で好評を得る。

本年2月「ヘンデルのアリア」リサイタルを開催（共演：伊藤美恵・根本卓也）。バッハ・コレギウム・ジャパン音楽メンバーとして演奏、録音、海外公演に参加。二期会会員、東京室内歌劇場会員、日本ヘンデル協会会員。中央区第九記念合唱団ヴォイストレーナー。

【主催・企画制作】株式会社 TSPI  
【演出・構成・プロデュース】柴田智子  
【製作協力】株式会社 BMI  
【衣装】山崎由佳里・VIVIEN ,NY 【デザイン】柴田智子  
【舞台監督・照明】鹿野慎二郎  
【プログラム編集】柴田智子 飯塚亜由美  
【後援】東京室内歌劇場、自由が丘商店街振興組合